

タイトル:平成 27(2015)年度 研究セミナー(第 16 回)

日程:平成 27 年 12 月 18 日(金)～20 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「現代トルコにおける“二重性”に関する考察 — 1938～1961 年までの政策変容を事例として」

田中 聡一郎 (一橋大学大学院)

■ 感想

中東☆セミナーを受講し、飯塚教授を始めとする主催者の方々から様々なアドバイスを頂き、非常に勉強になったと思います。自分の狭い視野にとらわれていた点や、理解において不備な点をご指摘頂き、是非今後の研究に役立てて行きたいと考えております。また用語の使い方を極めて無頓着に行っていた点も、基本的な事項ではあるにも関わらず、セミナーを通じて気が付いた反省点の一つです。博士論文はあらゆる点で論理の整合性、統一性を求められますので、今後十分に留意して行く所存です。本年度は、実際にトルコに渡航し各種資料の収集など行う事などを計画しております。更に研究方針の精緻化を進める為にも、本セミナーにてご指摘頂いた点を考慮に入れて取り組んで行きたいと考えております。

また AA 研機関研究員の坪井さんから、博士論文を執筆されるまでの経緯に関するお話しをお伺い出来た事も非常に参考になりました。これは研究の本流を支える重要な部分ですので、プログラムの合間や終了後、他大学にて研究なさっておられる方々と、どのような研究スタイルや、スケジュールを組んでいるのかなどの意見交換をする機会を持てた事も合わせて有意義だったと思います。

最後になってしまいましたが、総ての方にここで御礼を申し上げる事はできませんが、本セミナーを通じて、飯塚教授、高松准教授、錦田准教授のお三方からは特に貴重なアドバイスを頂戴致し、またトルコ研究者の方々や文献をご紹介頂きました事をこの場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

■ 評価

本セミナーに関する評価につきましては、感想においても述べました通り、非常に有意義なものであったと思います。もし今後のセミナーにおいて何かしらの改善点を僭越ながら申し上げさせて頂くと致しましたら、何かしらの形で受講生同士が議論する場があれば良かったのではないかと思います。以前にあるワークショップで、受講生の発表のモデレーターを他の受講生が務め、またコメントも受講生が主体で行う形式のものに出席する機会がありました(主催者は最後に総括コメント)。分野が違くと、コメントを控えてしまう事がありがちですが、この様な方法をとる事で受講生間のコミュニケーションの更なる活性化を図る事が出来る様になると思います。